

いただいた御意見への対応

	第1回提示案	御意見 (○:委員 ◇:林業・木材関係者等)	今回提示案への反映
森を活かすプロジェクト	主伐・再造林の推進 ①山ぎわで条件の良い所は「資源循環の森」として主伐・再造林を推進 ②主伐・再造林の一体型施業による低コスト化の推進 ③コンテナ苗や早生樹も含めた苗木供給体制の整備	○地域性を踏まえて主伐・再造林を進めてほしい。 ○再造林には獣害対策が必要。 ◇主伐を進めるなら必要な苗の確保や再造林の経費の負担など課題を解決すべき。	・収益が見込まれる場所での再造林を推進 ・植栽木の食害防止対策や森林組合等によるシカの効率的な捕獲を推進 ・新たな苗木生産者を確保・育成
	間伐の加速化 ①森林環境譲与税の活用による市町が主体の間伐の推進 ②ICT技術を活用した資源量把握・境界明確化の推進、コミュニティ林業や所有権の集約化による森林施業地の確保	○福井の山にどのような森林資源があるのか、生産に見合う森林資源量がどの程度あるのか把握が必要。 ◇森林所有者のほとんどが境界が分からない。 ◇ICT(航空レーザー)の活用を検討していきたい(市町や森林組合等)。 ○◇小規模の森林所有者が多いことを念頭に、コミュニティ林業のように集落機能を活かして森林資源を上手く活用する必要がある。 ○地域特性を活かして特徴・特色のある林業を行っていくべき。 ○造林樹種としてスギ・ヒノキ以外に何があるのか、長期的にどのような森林を造成していくのか。 ○列状間伐は推進しないでほしい。	・ICT技術の活用による森林情報の高度化(詳細データに基づいた確かなゾーニングや使える量の把握等) ・コミュニティ林業を拡大するとともに、森林所有の集約化を推進 ・新たな造林樹種の生産、育林方法を確立 ・スギ、ヒノキに加え、広葉樹やカラマツなど多様な樹種による再造林を推進 ・ゾーニングに応じた目的や条件に合う場所において列状間伐を推進
	担い手の確保・育成 ①若者に魅力的な林業とするため、機械化や安全装備の充実による生産性向上、労働環境改善を推進 ②一事業体当たりの事業量を拡大し、林業従事者の所得を向上	○林業が若い人や女性が活躍する場になってほしい。 ◇技術を習得した後は、すぐに就業したい。 ◇技術を持った人に就業してほしい。 ◇林業を知る機会が少ない、就業先の情報が少ない。	・若者や女性が活躍できる環境を整備(安全装備の充実や就労環境の整備) ・林業カレッジに短期コースを設定し、就業希望者の多様なニーズに対応 ・就業ガイド作成など林業および林業事業体の情報発信を強化
		○クローラ系などの道の搬出距離が伸び、非効率な現場が増えており、計画的に基幹道を整備することが必要であり路網整備の方針を県として再検討すべき。	・木材の生産性を高めるため、森林資源や作業システムなど地域の実情に即した路網整備を推進
木を活かすプロジェクト	攻めの県産材の販路開拓 ①県内だけでなく都市圏や海外の販路を積極的に開拓	○◇他県や海外に売っていくには消費者ニーズを把握しながら木材の新しい使い途を開拓する必要がある。	・遊具・玩具、木質空間のパッケージ化など独自のものを開発
	木材加工流通体制の強化 ①大型工場の整備によるB材需要の大幅な拡大	○◇中大規模木造施設の建築が増えることが予想され、県内だけでなく都市部にも福井県のB材を加工した木材製品を供給する必要がある。 ○内装材需要の増加に対応する生産体制の強化。	・LVL等のB材加工工場の整備 ・中大規模施設等の木造建築設計者の育成 ・内装材等の付加価値製品の生産体制の強化
	新たな分野における利用拡大 ①炭素繊維との複合化など新たな加工技術を活用し、異業種×県産材による新商品開発を推進	○大径材や長尺ものの活用や付加価値を高めた製品開発の推進。 ○インテリアなどに使える商品開発が必要。 ○木育施設や木製おもちゃなどは、知恵を絞って独自のものを開発したらどうか。	・遊具・玩具、木質空間のパッケージ化など独自のものを開発 ・ICT技術の活用による森林情報の高度化(大径材や長尺ものの活用)
		○木材の特性を活かした使い方について、関係者の間で一層研究することが必要。 ◇構造材(横架材)の活用など県産材を活用した住宅・民間施設の支援の継続。	・建築士等を対象とした研修会の開催 ・県産材の家づくりの推進 ・民間施設の木造・木質化の推進
森に親しみ、森を守るプロジェクト	森林ビジネスの創出・強化 ①身近に森を感じてもらうため森林空間を観光や保養のフィールドとして利活用する「森林サービス産業」を創出・強化 ②県産特産林産物のブランド力の強化と生産額の向上	◇森林を地域の観光資源として事業を広げ、インバウンドや県内外からの誘客を増やしたい。 ○ブランド化して付加価値をつけ、高く売れる販路を開拓していく必要がある。	・様々なライフステージに応じた新たな森林サービスの創出と、SNSなどの活用やガイドマップの作成等により、インバウンドや県内外の観光客を誘客 ・香福茸では規格ごとの販売戦略による販路の拡大、SNSなどでの情報発信や試食イベントを開催
	暮らしを守る森づくりの推進 ①ICT技術の活用による土砂崩れなどの事前防災・減災対策に向けた治山対策の推進 ②針広混交林化等による獣害・病害虫に強い森づくりの推進	○防災や減災の一助として山の手入れの重要性について啓発活動を行ったらどうか。	・防災意識の向上を図るため実施している県内全域での治山現地研修会や山林保全監視モニター研修会において、引き続き適正な森林整備の重要性についても啓発活動を実施
	緑と花の県民運動を永続的に展開 ①総合グリーンセンターに木とふれあえる木育施設を整備 ②主要駅や観光地周辺を中心とした花いっぱい運動の推進	○森林の管理や木材の利用に関する地域の人たちへの積極的な働きかけにより、森林の大切さを県民に強く伝えてほしい。 ◇観光地や駅周辺の商店街や住民が活動してくれるとよいが、住民による自発的な活動がなかなか浸透しにくい。	・6月第1日曜日の森づくりの日などにおいて、森林の大切さや木材利用に関する普及を図るためのイベント等の開催を通じて緑と花の県民運動を推進 ・観光の拠点となる駅や観光地周辺において、花づくりの団体を育成し継続的な活動を推進